

第59回政策本会議

「EAF京都総会およびNEATクアラルンプール総会を総括する」メモ

2013年9月19日
東アジア共同体評議会事務局

第59回政策本会議は、東アジア・フォーラム（EAF）第11回年次総会（8月20日～22日、京都開催）において議長を務めた平林博当評議会議長など3名、および東アジア研究所連合（NEAT）第19回国別代表者会議（CCM）・第11回年次総会（8月25日～27日、マレーシア・クアラルンプール開催）に出席した平林当評議会議長など5名を報告者に迎え、「EAF京都総会およびNEATクアラルンプール総会を総括する」と題して開催されたところ、その概要は次の通り。

1. 日時：2013年9月19日（木）午後2時より午後4時まで
2. 場所：日本国際フォーラム会議室
3. テーマ：「EAF京都総会およびNEATクアラルンプール総会を総括する」
4. 報告者：6名（重複2名を除く）

〔NEAT総会〕5名

平林 博 当評議会議長・日本国際フォーラム副理事長
石川 薫 当評議会常任副議長・日本国際フォーラム専務理事
佐藤 禎一 当評議会有識者議員・東京国立博物館名誉館長・国際医療福祉大学教授
進藤 榮一 当評議会副議長・筑波大学名誉教授
菊池 誉名 当評議会事務局長・日本国際フォーラム主任研究員

〔EAF総会〕3名

平林 博 当評議会議長・日本国際フォーラム副理事長
溝畑 宏 当評議会有識者議員・元観光庁長官
菊池 誉名 当評議会事務局長・日本国際フォーラム主任研究員

5. 出席者：18名

6. 審議の概要

(1) 8月25日～27日、マレーシア・クアラルンプールで開催された NEAT 第19回国別代表者会議（CCM）および第11回年次総会について

冒頭、菊池誉名事務局長より、配付資料「東アジア研究所連合（NEAT）第19回国別代表者会議（CCM）・第11回国年次総会報告書」に沿って、概要報告が行われ、その後会議に出席した日本代表団4名から下記の通りの報告があった。

(イ) 平林博 当評議会議長・日本国際フォーラム副理事長

今回の NEAT の活動に参加して印象深かったことは、今や APT での議論がハード面からソフト面に重心を移し始めているということである。このことは、日本の WG が「人と人との連結性」を取り扱っていることからわかる。

「政策提言メモランダム」では、当方から、(a) NEAT と SOM の連携の強化、(b) NEAT が APT 外部のシンクタンクに開かれたものとし、EAS 加盟国（特に米国）の中の信頼性の高いシンクタンク、また欧州のシンクタンクから参加者を総会に招待すること、(c) マスコミを利用して NEAT の認知度を高めること、の3点を挿入するよう提案した。(a) については、今回の総会にはマレーシアの SOM 代表が参加していたこともあり、すんなりと取り入れられたが、(b)、(c) については、一部の国から「NEAT の運営に関わる内容であり、メモランダムとして APT 首脳会議に提案することではない」との消極的発言がなされ、また特に (2) については ASEAN ではまだそのような能力や自信がない様子が見受けられたため、今回は深追いせず、「メモランダム」への挿入は叶わなかった。

「メモランダム」に挿入する各 WG からの提言については、中国主催の「東アジアにおける連結性協力：東アジアにおける金融インフラ連結性」の提言の中に、APT におけるインフラ建設を目的とした「東アジアインフラ投資銀行」の設立が含まれていた。この提言に対して、「『東アジアインフラ投資銀行』はアジア開銀と重複するところがあり、資金や人材確保の点で難しいところがある」と指摘し、そのような銀行設立そのものではなくフィージビリティ・スタディーを行うことを ASEAN 首脳への提言とするとの妥協策を提示したところ、全会一致で承認された。

なお、「メモランダム」は、これまで外務省などを通じて APT 首脳会議に提出されていたが、NEAT の存在意義を高めるために、NEAT 議長から直接 SOM 議長に提出すべしとの提案を行ったところ、その提案が採用され、総会終了後、NEAT 議長のマレーシアから、APT 議長国のブルネイの SOM 代表に、今次の「メモランダム」が提出された。

(ロ) 石川薫 当評議会常任副議長・日本国際フォーラム専務理事

総会では、3つのWGの報告と議論が行われた。夫々に主催国のお国柄が出ていたと感じたが、例えば「Beyond the Chiang Mai Initiative」では、中国の鎧がチラチラと見えた。また、シンガポールとインドネシア共催の「包括的成長」WGのジャカルタ会合に参加した上で、今次総会に臨んだが、ASEAN域内に一人当たりGNPの差があるとは言え夫々の社会で落ちこぼれる人をなくそうとの意思を感じた。また、そのために、域内発展のための各論に取り組んでいくことが重要であるとの結論になり、例えば、日本からインドネシアに伝えられた母子手帳の利用といった、社会福祉政策における経験の共有の重要性について提言することになったが、これはそのまま「メモランダム」に取り入れられ、大きな成果であった。日本主催の「人と人との連結性」については、佐藤禎一WG議長によるプレゼントと議論のリードで中味の濃い意見交換となった。各国で影響力を保持している有識者と、率直な意見交換が出来ることは、トラック2活動の重要な点であるが、そこでも日本を頂とするいわゆる雁行型のシンクタンクの成長が感じられた。

(ハ) 佐藤禎一 当評議会 有識者議員・東京国立博物館名誉館長・国際医療福祉大学教授

日本主催の「人と人との連結性強化—教育、観光、文化交流—」WGの主査を務めたが、WGでは、幅広いテーマであり、かつ各国からの参加者の専門性もまちまちであったため、必ずしも焦点を絞った議論が出来なかった。また、観光分野における議論は活発に行われたが、参加者からはあくまでの自国へのインバウンドを期待しての意見に終始したものになってしまった。今後、NEATでこの分野の進展を図るには、次の3つの点に留意することが必要である。1つ目は、教育、観光、文化交流は、トラック1の活動が順調に進んでおり、それぞれ大臣会合が開かれ、「行動計画」などの策定も行われているということである。もっとも、この点は、ASEANでは民間ではなく、政府レベルでプログラムを策定していかなければ物事が進展しないという事情のためともいえよう。2つ目は、アイデア・ベースの議論が中心となってしまったことである。今後は基礎的なデータの共有を事前に行いつつ、議論に臨む必要がある。3つ目は、トラック2とトラック1の役割の分担が明確ではないということである。折角、NEATはある程度の自主性をもって活動すべき役割を与えられているのであるから、今後はこの組織の特性をよりよく発揮出来るような工夫が必要であると感じられた。

最後に総論として、どんなに提言を作成し、またそれによって政府間の取り組みが進展しても、それを行う民間の協力体制を整えていかなければならないことは言うまでもない。例えば教育分野においては、どれほどキャンパス・アジアなどの政府間プログラムが進展しても、それを実際に運用する大学間の活動が伴わなければならない。

(ニ) 進藤榮一 当評議会副議長・筑波大学名誉教授

2007年よりほぼ毎年NEAT総会に参加してきたが、NEATが年を追う毎に成果を上げてきているとの印象を受けた。今回の総会では、行われている議論の質が、観念でなく且つ瑣末でもなく、将来的な地域統合に向けた内容の濃いものとなっていた。特に、WGでは「人と人との連結性」を取り上げているが、これまでは地域協力における「連結性」というと物理的なものに限定されていたが、今や、制度や人的な「連結性」に基軸を移して議論しているということは、東アジア地域統合における大きな前進といえよう。また、同WGからは、APTとしての「東アジア文化都市」の制定が提言されているが、実現すれば、2009年の日中韓サミットで制定されたた+3側の構想が、NEATを通じてAPTへと拡大していくということであり、大いに評価される提言内容である。NEATにおいては、こうした文化的な分野はこれまでは韓国が主導していたが、今回は日本主導により、質の高い議論がなされたともいえよう。最後に、近年、日中、日韓の外交関係は厳しい状況にあるが、NEATの会合では、中国側代表団とも率直な意見交換を友好的な雰囲気の中で行うことができた。こうした率直な議論を行えることもNEATの意義であると改めて認識した。

(2) 8月20日～22日、京都で開催されたたEAF第11回年次総会について

はじめに、菊池誉名事務局長より、配付資料「東アジア・フォーラム(EAF)第11回年次総会報告書」に沿って、概要報告が行われ、その後会議に出席した日本代表団2名から下記の通りの報告があった。

(イ) 平林博 当評議会議長・日本国際フォーラム副理事長

本年は、6年ぶりに日本がホスト国となり、京都の国立京都国際会館にて総会を開催した。京都で開催となったのは、一般的に知的交流は自由で闊達な意見交換を保障するために、リトリート方式が望ましく、かつG8サミットにおいて本会議もシェルパ会合もそのようにしており、EAFにおいても最近の主催国はそうする傾向があるためであった。結果として、APTのリーダー国である日本が、予算負担を覚悟しても京都開催としたことは、他国

に引けを取らない意味でもよかった。

本会議では、昨年のホスト国のミャンマーの代表者と共同議長を務め、「人と人との連結性強化：特に観光協力で焦点を当てて」を全体テーマとして議論した。観光が人と人との連結性において決定的に重要な分野で、観光においては安全、安心、衛生（Safety, Security, Sanitary のスリーS）が重要であり、各国による観光誘致はゼロ・サムゲームであってはならず、APT 各国で協力して取り組んでいく分野である、とのコンセンサスが得られた。建設的で内容の深い議論を行うことができた。

これまでの EAF では、全体会合、分科会、全体会合の構成で行われ、分科会は、三者代表がそれぞれ分かれて会合していたが、これでは三者合同会議の趣旨の半分は損なわれていた。そこで、今次会合では、外務省とも相談し、議長国の Prerogative により分科会を廃止したところ、すべての会合にすべての出席者が出ることになり、結果はポジティブであった。このことが今後の先例となるかどうかは次期議長国次第だが、一石を投じた意味は大きい。

(ロ) 溝畑宏 当評議会有識者議員・元観光庁長官

観光庁長官として「観光立国」を推進してきた立場から、この度の EAF が、観光をテーマに京都で開催されたことに大変感謝している。各セッションでは、「観光資源のための協力」、「域内観光の促進」、「新しい観光と観光の円滑化」をテーマとしていたが、非常にポイントが絞られており、活発な議論が展開されていた。近年、政府レベルでは、ビザの緩和、CIQ の改善、LCC の促進、多言語表示、ニューツーリズムの推進が関係国の協力の下で具体的に推進されている。観光には地域間交流、協力、経験の共有、そしてリスク・マネジメントなどが重要である。例えば、先の東日本大震災後の風評被害対策においては、APEC 大臣会合で議論された「観光はリスク・マネジメントである」という指摘が大変参考になった。同じように、今後、今回の EAF で議論された内容が、各国の施策に具体的に活かされることを願いたい。なお、今後はいずれのテーマで行うにしても、EAF の議論の場に、それぞれの分野の現場で実際に活動している民間からの参加者をいれてはどうだろうか。ここで議論されたことに対して、各国の取り組みをフォローするとともに、それらを現場に反映させる意味で、関係する民間団体、民間企業の参加も検討してもいいのではないだろうか。

(3) その後、出席議員から、つぎのようなコメントないし質問が述べられ、活発な議論が展開された。

(イ) NEAT の「メモランダム」について、ホストのマレーシア作成の原案では、「The region has competing territorial claims over airspace, sea and land that have to be carefully managed or they can be sources of tension and ultimately conflict. Critically, secure access to these commons must be open to all stakeholders.」との文章があったが、同文章に対して中国からの削除提案があったところ、マレーシアがすぐに削除に同意し、各国は意見の表明すらできなかつた、ということであるが、これについてマレーシアの真意はどこにあったのか、との疑問が呈された。これに対し、平林議長より、「そもそも、上記マレーシア作成の文章は、如何ようにも解釈できるものであり、あまり推敲を重ねたものではないようにもとれる。今後もマレーシアが東アジアにおける「公共財」の重要性を表明していくつもりがあるのであれば、日本としては応援をしていくべきであろう。」との見解が表明された。

(ロ) NEAT の参加者をみると、初期の頃に代表者として参加していた方々が引退され、次の世代が活躍しているようである。このことは、NEAT も設立から 10 年が経過して、第 2 世代に入ったということである。ただ懸念すべきは、NEAT（研究所ネットワーク）と言いながら、参加者の多数ないし全部が外務省から派遣されているような国も多くなり、日本、中国、マレーシア、シンガポールなど、NEAT を牽引している国とのギャップの拡大がみられたことである。

(ハ) 「メモランダム」において、中国提案の「東アジアインフラ投資銀行」設立の提言を修正できたことは重要である。中国は、上海協力機構の枠組みにおいても銀行を設立しようと動いているが、ロシアの反対にあって頓挫している。中国のこうした動きの背景には、銀行の設立が担当者の利権や処遇に大きく影響するためであると考えられる。そのため、こうした構想に、日本は今後も協力すべきではない。

(ニ) NEAT、EAF ともに観光について有意義な議論が行われていたようであるが、今後日本は「メディカル・ツーリズム」をもっと推進するべきではないか。すでに、韓国は同分野への取り組みがだいぶ進んでおり、国際空港近くに大病院を建設し、治療に訪れる患者へのビザの発給を行うとともに、その家族にも発給して、付随的に観光を行えるように推進している。他に、日本の医療機器などの海外でのシェアに危機感を持っている。今や、日本の ODA で建てられた ASEAN 諸国の病院でさえも、シーメンス製の医療機器や、日本人ではなく中国人の医師が代わりに働いている。これは、日本の医療従事者の不足のためであろうが、今後の対応の検討が必要ではないか。

(ホ) 政治状況に関係なく、NEAT、EAF では中国との代表者と友好的な議論を行ったとのことであるが、中国では経済、金融に陰りが見え始めており、結局はこうした国内の状況も影響したのではないか。ただ、いずれにしても、NEAT、EAF の存在が、東アジアにおける重なる枠組みであることはいままでもない。

(へ) NEATにおいて、日本のWGで高等教育を取り上げたことは、非常に重要である。教育分野では、初等教育、中等教育は、どうしても各国の国民形成の重要な部分であることから、各国で共通して枠組みを構築するのは難しい。そのため、高等教育の推進を行うことは、理にかなっている。

以上
文責在事務局